

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	室内音響研究小委員会	主 査 名：岸永伸二 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会(音環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・2005 年度：室内音響の現状を把握し今後を模索 ・2006 年度：次世代重点テーマを設定 ・2007 年度：新規 WG 立上げ ・2008 年度：WG 成果による設計資料刊行準備．今後を占うシンポジウム開催． 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り	
	佐藤洋(産総研),羽入敏樹(日本大学),岩瀬昭雄(新潟大学),小野朗(永田音響設計),買手正浩(大成建設),河井康人(関西大学),佐藤史明(千葉工大),中川清(清水建設),西川嘉雄(鴻池組),阪上公博(神戸大学),池上雅之(大林組),日高孝之(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名:目的)	1)音響指標測定研究 WG:各種室内音響評価指標の標準測定法の提案を目指す． 2)音声伝送研究 WG:音声情報伝達の予測・評価手法について実務レベルの要求に応える手法の確立を目指す． 3)スピーチプライバシー研究WG:情報漏洩防止や個人情報保護といった時代的要求の高まりを受け、会話音声に関するプライバシー保護技術の確立を目指す．	
2008 年度予算	284,220 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1.第65回 音シンポジウム<室内音響における“拡散”研究の最近の動向と今後の展開> (資料名) 同上 参加者数 80 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1.室内音響活性化の議論を踏まえ、今後の室内音響分野を占うためのシンポジウムを開催する(3/27)． 2.音声伝送 WG:『音声伝送性能の設計・評価に関するアカデミックスタンダード』刊行に向けドラフトを作成した．2008 年建築学会大会で音声伝送関連のオーガナイズドセッションを企画実施した． 3.音響指標測定研究 WG:G 値および IACC の測定結果の整理が完了した． 4.スピーチプライバシー WG:これまでの検討結果を踏まえ、シンポ開催に向け準備中．
委員会活動の問題点・課題	室他分野の研究者、技術者との意見交換などが必要である．また、若手研究者の育成にも目を向ける必要がある．

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする．

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること．

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること．

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由, 特記事項等)	<p>理由: 近年, 我が国において大型ホールや劇場の建設ラッシュが一段落し, 室内音響分野に若干の沈滞ムードがあった. しかし小委員会での室内音響分野の活性化のための議論を通じて新しい社会的ニーズを模索した結果, 室内音響分野は再び活性化しつつある. また, 2005 年度~2008 年度の 4 年間で 3 回のシンポジウム, 学会大会でのスペシャルセッション企画, アカデミックスタンダードの作成など, 積極的に研究成果の社会還元を行った. その他, 小委員会および傘下の WG の下記の取り組みにを通じて室内音響研究分野に貢献したと考えられるため A 評価とした.</p> <p>1.室内音響研究小委員会: ○室内音響活性化のため活動方針を議論. 委員による持ち回りプレゼンを実施. 2008 年度は委員外の研究者にも依頼してプレゼンを実施し, 新たなニーズを模索した. 2007 年度, 情報漏洩防止や個人情報保護といった社会的ニーズに対応した“スピーチプライバシー研究WG”を立ち上げた. 2008 年度: 建築学会大会で音声伝送関連のオーガナイズドセッションを企画実施. 2008 年度: 今後の室内音響分野の今後の可能性を探るためシンポジウム実施.</p> <p>2.WG の活動成果</p> <p>2-1.音響指標研究測定 WG: 測定法の問題点把握のためにカザルスホールにて共同測定を実施. 共同測定の結果を詳細に分析するために, 使用したスピーカの PWL 測定, 使用したダミーヘッドマイクロホンのイコライザー等の特性の測定を行った. また, ホール内の測定点数, G 値, IACC などの詳細な分析を実施した. 2006 年 12 月の日米音響学会ジョイントミーティングにおいて成果発表を行った. 室内音響測定関連の国際標準規格 ISO3382, ISO18233 の問題点等を議論した結果, 測定方法の説明書・解説書などの必要性が見えてきた. 残響時間測定の国内規格が無いことから JIS 化の是非について議論を行った.</p> <p>2-2.音声伝送研究 WG: 2007 年 3 月にシンポジウムを開催し音声伝送研究の成果を発表した. それを基に『音声伝送の評価基準』作成に取り組んだ. 2008 年 3 月にシンポジウム『音声伝送品質設計・評価に関するアカデミックスタンダード』を開催. 学会内外から評価基準等に対する意見収集を行った. その意見を基に, 評価基準の修正と設計, 測定方法, 各種データなどの資料収集及び整理を行い, 実務に活用できる『音声伝送の評価基準アカデミックスタンダード』刊行のためのドラフトを作成した. 建築学会において音声伝送関連のオーガナイズドセッションを企画実施.</p> <p>2-3.スピーチプライバシー WG: スピーチプライバシーとセキュリティに関する国内外の研究動向を調査し, 日本における研究の方向性について議論した. スピーチプライバシーの評価基準の作成のための基礎データ構築のため, 薬局および病院等の医療機関のスピーチプライバシーの実態調査を行った. アメリカ音響学会のスピーチプライバシー委員会との情報交換を行った. シンポジウム『スピーチプライバシー研究 WG 活動報告 -スピーチプライバシーをとりまく現状と課題-』を企画, 2009 年 6 月に開催予定.</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて, 自己評価すること.

- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム，セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。